

伊勢湾航路における海鳥センサスの報告

先崎啓究, 新妻靖章 (名城大学農学部)

2004年より毎月1回伊勢湾フェリーの定期航路に乗船し, 海鳥類の航路センサスを行った. 航路は三重県鳥羽市から愛知県伊良湖間を, 鳥羽~伊良湖間を約18ノット(時速約33キロ)で運行されている. 海鳥のセンサスは, 双眼鏡を用いて船から200メートルの範囲で観察された海鳥類を記録した. 観察した海鳥については, 可能な限り, 種名と年齢を識別したが, 悪条件などで精細が観察できない場合は属レベルでの識別とした. 航路上では, 冬季はカモメ類やカワウの越冬個体が多く観察された. また太平洋の外海に接する愛知県伊良湖岬付近の海上では, ウミスズメやミツユビカモメが頻繁に観察された. 夏季は湾内では少数のカワウや非繁殖と考えられるウミネコが観察された. また, 良湖岬付近の海上では, オオミズナギドリが観察された. 伊勢航路上では, 夏季は冬季に比べると観察された海鳥類は種類, 個体数共に非常に少なかった. 航路上で観察されたカモメ類は, 愛知県よりも北で繁殖する種が越冬のために利用していることが推測される.

愛知県矢作川と鶺の山におけるカワウの吐き戻し・胃内容物とアユの食害

新妻靖章, 佐藤真衣, 別所透, 野々山尚志 (名城大学農学部環境動物学研究室)

90年代以降, 各地でカワウの個体数と分布域が激増し, カワウによる内水面漁業への食害が問題とされるようになってきた. この急激な分布の拡大と個体数の増加が, 各地で営巣する森林への被害や内水面漁業への被害問題を引き起こしている. 愛知県においてもカワウによる漁業被害が懸念されているが, 実際カワウが何を食べているか不明な点が多く, 被害がどのようなものなのかは解明されていない. そこで, 本研究ではカワウが鶺の山コロニーと矢作川近郊においてカワウが何を採餌しているのか, 吐き戻しと胃内容物を分析することにより, 明らかにした. 食性分析の結果から, 愛知県矢作川近郊におけるカワウの胃内容物から検出されたアユの数は全体の3%, 湿重量では4.8%であり, 愛知県鶺の山コロニーのカワウヒナの吐き戻しからはアユの出現はなかった. 胃内容物調査は3月中旬から6月中旬に行っており, 矢作川においてはアユの遡上のピークが5月上旬であることより(矢作川天然アユ調査会), カワウはアユを採餌できる環境にあった. また, アユは単位体重あたりのエネルギー量が他の魚種(胃内容物分析によって出現した魚種)と比べて高かった. しかし, 吐き戻しにも, 胃内容物にも, アユの出現率および湿重量比とも低い値であった. 従ってカワウにとってアユは重要な採食種ではない可能性がある.

日本における海鳥の現状と課題

藤田泰宏, 新妻靖章 (日本海鳥グループ)

今年是对馬や北海道で海鳥の死亡漂着が相次いだ。このような事故は規模の大小を別とすれば、毎年のように発生しており、海鳥を取り巻く環境は厳しいものがあります。このような現状に対応するには、何よりも海鳥の置かれている状況を知ることだといいます。そこで、今年
の自由集会では、以下について話し合いたいと思います。

・海鳥の現状

1. 各地の海鳥の近況報告
2. 対馬や北海道での油事故の報告
3. 昨年実施した海鳥一斉調査の結果
4. その他

・海鳥のための取り組み

1. 油汚染時の対応への取り組み
2. 海外講師を招いての航路調査実習
3. データベースの紹介
4. 国際シンポジウムの日本での開催について

・日本海鳥グループの運営について